

退任のごあいさつ

国際交流員 キム ア ヨン 金雅英

皆さん、こんにちは。この度、令和3年3月31日付けで退任することになりました。平成27年3月9日に赴任してから6年間、73回の「国際交流・韓国」コラムを通して韓国について皆さんにご紹介してきました。

今までを振り返ると、たくさんの思い出がありますが、太宰府での日常を一番思い出します。

最初は、近くのスーパーを探すことも難しかった私ですが、生活するにつれ、太宰府の魅力にハマっていきました。岩屋城跡から見渡す太宰府市内、浴衣姿で歩くにぎやかな参道、風が運んできたふんわりとした梅の花の香り…食べ物人も私にはとても合いました。家族や知人が来たときに太宰府を案内すると「ずっとここにいたい」「歩きながら風景を見るだけで癒やされる」と言われました。太宰府で生活ができて本当にうれしかったです。

生活の中で日本の魅力を体験したことで、小・中学校での授業や姉妹校交流で日本と違う韓国のことを伝えることができました。また、姉妹都市・扶餘郡との交流の際は通訳がスムーズにできるようになりました。

学校の授業、市民との交流の場で「また韓国の友だちといろいろ話したい」「今まで知らなかった韓国についてたくさん聞けてよかった」などのコメントをいただいたときは、とてもやりがいを感じました。すべて周りからの支えがあったからこそできたことでした。

帰国後は、今まで学んだことを生かして次のステップに行けるように頑張ります。私からの韓国便りはこれで最後となりますが、来月号からも「国際交流・韓国」は続くので、楽しみにお待ちください！

今までありがとうございました。



学校での授業の様子

人権標語

ありがとう
友だちつくる
まほうのこぼれ

太宰府南小2年 たかき はると 高木 遥人さん
(応募時)



うえの ともこ 上野 智子(太宰府市五条) 池坊

花材 レンギョウ、アイリス、ハラン

季節の生け花

太宰府市華道連盟

つれづれ

太宰府短歌会

冬の夜の手の冷たさに目が冷めぬ
夜具かけくれし母を想いて

東ヶ丘 西木 ミヤ子

焼きたてのパンの匂いとすれ違う
今朝のウォーキングの足軽くして

大佐野台 宮崎 フミ

「人に歴史あり」耳に残るを省みる
八十九年我が生き来しを

湯の谷 山崎 八重子

四日ぶり積雪溶けて何事も
無かったやうにパンジーあらはる

五条 山田 乃ぞみ

うら若き眼力美人がマスクにて
見せぬ口もとに薔薇の花咲く

春日市 山本 憲一

太宰府俳句会

啓蟄や気分次第のひとり旅

持永 真理子 選

啓蟄や予約頻りの美容室

東観世 中島 祝乃

啓蟄や本腰入れて畑仕事

国分 松尾 満子

啓蟄の畑潤してゆく小雨

水城 福永 恵美

ふはふはり春風ゆゑの油断かな

小郡市 宮原 勝彦

飛梅句会

寒明や心の寒も明けてをり

介弘 紀子 選

寒明くる堰にたしかな水の声

馬場 野上 コト子

寒明の言葉しつくりこない日々

観世音寺 野田 杉子

二階よりこぼるる声や寒明くる

筑紫野市 羽野 喜久代

寒明や老いの命の華やきて

青葉台 平野 香

宝満句会

先駆けの金縷梅を訪ひ山に入る

菅井 久美子 選

コロナ禍の休校つづく余寒かな

筑紫野市 名本 剛

まんさくの色ふくらまず日射しかな

大野城市 福岡 とみ子

星一つきらめく空の冴返る

高雄台 川路 泰子

パレットに淡き色置く春浅し

大佐野台 金丸 恵子

都久志てんじん句会

寒詣お百度石の薄びかり

佐々木 甘露子 選

感染のしじまの闇へ豆を撒く

彦坂 正学

春菊の花を想いて摘むを止む

北川 朴洋子

マスクして赤べこゆらりゆらりかな

西村 悦夫

加湿器のあてなくけぶる余寒かな

塩飽 たか子

太宰府川柳倶楽部

寂しさにもつばら夢を見えています

小池 一恵 選

趣味多彩老いの暮らしのリズム感

都府楼 杉 良子

悔いいっぱい残して生きてきた轍

大佐野 小鹿野 桂

紅をさす女でいたい八十路坂

松川 山根 清

賭け事はせぬがもつばら宝くじ

観世音寺 松浦 ちえ